

御 礼

本日は、わが組合の結成70周年記念レセプションにご多用中のところ、ご臨席を賜りましたこと、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

こうして結成70周年を祝うことができるのは、諸先輩方と私たちがこの70年間、日々“声”を上げ続け、今日の揺るぎない労働組合運動を飛躍・発展させてきたからだと思います。また、ご来賓の皆様のご指導・ご鞭撻も大きな力となっています。

併せて、日々の厳しい職場環境の中で、23区の清掃事業を支えている組合員、そのご家族の皆様、関係者の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

結成50周年以降の20年間の歴史は、区移管をどう総括するのか、清掃事業を公共サービスとしての観点からどう評価するのかが大きなテーマとなりました。

なぜ、区移管以降も東京清掃労働組合が単一労働組合を維持しているのか、どのように公共サービスとしての清掃事業を守る運動を進めてきたのかが結成70周年を迎えるにあたっての視点になると思います。

清掃事業が特別区に移管されて以降、新規採用の抑制や退職不補充に加え、各区の独自性の下、事業の委託や非正規労働者の活用など、移管当初の清掃事業から大きく変遷しました。しかし近年では、大規模災害発生時の現場力が評価されるとともに、社会的な人手不足から、現業系職員の新規採用を増やす傾向が強まっています。

現業職場の大きな特徴は、専任の正規職員が継続的に業務を担っていることであり、そこから有形無形の知識や経験によるノウハウが蓄積されます。そして、そのノウハウは、組織にとっての貴重な財産です。

東京清掃労働組合は、より質の高い公共サービスとしての清掃事業をめざすとともに、すべての労働者の雇用・生活・権利・人権を守り、反戦平和・護憲・人権確立・脱原発の取組をさらに前進させるため、全組合員が一丸となって社会的労働運動を強化していきます。

これからも「皆様の生活と共にある東京清掃労働組合」であり続けるため、70年間の貴重な歩みと歴史を礎に、新たな時代へと一步一步着実に歩んでいきます。今後とも、わが組合に対するご指導、ご鞭撻を賜りますよう御願い申し上げます。

略儀ながら、書中をもちまして御礼申し上げます。

2019年9月26日

東京清掃労働組合
中央執行委員長 中里保夫